

会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市立博物館協議会		
事務局 (担当課)		博物館 電話 0 4 2 - 7 5 0 - 8 0 3 0 (直通)		
開催日時		令和 7 年 9 月 3 日 (水) 午後 2 時 0 0 分～午後 4 時 0 0 分		
開催場所		博物館 1 階 小会議室		
出席者	委 員	8 人 (別紙のとおり)		
	その他	0 人		
	事務局	5 人 (並木館長、外 4 人)		
公開の可否		☒ 可 ☐ 不可 ☐ 一部不可	傍聴者数	1 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
議 題		(1) 相模原市立博物館活動評価(案)について (2) 常設展示室のリニューアルについて (3) その他		

議 事 の 要 旨

(1) 相模原市立博物館活動評価(案)について

相模原市立博物館活動評価書(案)について、事務局より説明を行った。

(岩野会長) ただいま事務局の方から、令和6年度の活動評価について、各項目ごとに簡単にご説明をいただきましたが、まず、令和5年度までの評価書との違いのところを、もう一度おさらいとして把握していきたいと。

それを、もう一回、ご説明いただけますか。

(事務局) いくつか項目を一緒にして、一つにしたというものが、ほとんどで、新たに項目を作ったとかそういうものではなくて、基本的に分けづらいものを何か無理やり分けていたところがあったので、それを一緒にしたですとか、項目によっては2回も3回も同じような、項目が出てきて、というものがありましたので、それを、一つにしたというのがあります。

先ほど少しだけ説明しましたが、最初の1番の大項目ですけれども、そのうちの1-1の資料収集及び調査研究とその成果の公表のところですね、1bなんですけれども、資料収蔵資料の充実と活用という項目になっておりますが、以前はですね、収蔵資料の充実と活用が別項目だったのですが、この両者は非常に分けづらいですので、今回から、収蔵資料の充実と収蔵資料の活用を一括して評価する形にしました。

続いて、1-2a、2bはほとんどそのままですね。

広報のところですね。ちょっとページが前後して申しわけございませんが、9ページの1-2c、様々なメディアを用いた情報発信の取組のところですが、そこにカッコが2つありますけれども、一つがインターネットによる情報発信、もう一つが、その他の情報発信ということで、これは特にインターネットと分けてありますけれども、分けて評価することはないのかなということで、広報という一括りにしてまとめて評価することにしました。インターネットの情報発信、それ以外の情報発信と、両方に同じ内容を発信したりしている場合がございますので、これは分ける意味がないと考えて、一緒にして広報ということで出しました。

前後して、申し訳ないんですが、例えば、1-4aの施設環境の維持管理、小項目は1-4aで1項目しかないんですけれども、ここは以前、資料保管のための適切な環境の維持と、施設設備の維持管理とで分けてありましたが、こちらですね、なかなか分けづらいところがありましたので、今回、資料保管のための維持管理と、それ以外の施設設備維持管理は、大きな括りとして施設環境の維持管理ということで、一つの項目にまとめました。

市民協働に関しては、番号が変わっただけで同じ項目になっております。

3番の多様な主体との連携ですね、こちらも幾つか項目を、まとめました。まとめたところとしては、3-1bですね、18ページです。

3-1bが他機関での展示や事業ということで、以前は機関での展示と、他機関と連携した事業ということで分けてありましたが、例えば展示に関連したイベントを行ったりする場合がありますので、やはり分けずらいということで、他機関での展示と他機関と連携した事業を一本化して評価することにしました。

最後になりますが、学校等への学習支援の中で、3-2aですね、講師派遣、資料活動による学習支援ですけれども、こちらはですね、資料貸し出しが、いわゆる貸出キットと、講師派遣の出前授業ですね、別に分けて評価していたのですが、貸出キットだけじゃなくて、実際、学芸員が博物館の資料を持って行って出前事業を行ったりですとか、貸出キット以外の資料も貸し出す場合がありますので、こちらも講師派遣の部分と、資料貸し出しだけによる学習支援というのが、分けずらいということで両方まとめた評価といたしました。

以上が、変更点になります。基本的に項目は削っていませんので、合わせただけということで考えていただければと思います。昨年度との比較がしやすいように、項目はカッコで記載してあるので、昨年度と比較するときは括弧を見ていただければ、比較しやすいかと思います。以上です。

(岩野会長) ありがとうございます。今説明を聞いて少し理解できたかなと思ってはいるんですが、聞いていて、正直な話、これだけで評価するのはなかなか難しい。例えば、有識者意見を言ったりするというのはどこまで本当に言えるのか疑念もないわけではないんですが、やっているわけです。

新しく入られた津田委員ですと、いろいろな心配がないわけではないと思いますが、私自身は一昨年のもし報告書があればそういうものも参考にしながら、どこが違っているのか、そして、そういったところを少し把握しなおしながら、やっていかなくتهはいけないのかなと、そういうところをちょっと、考えています。

他の委員の方々も毎年やっているけれど、もう一度時間がある時にですね、各評価の項目についても、吟味といたらいいでしょうかね、内容点検をした上で、意見等を述べていただければ、ならないのかな、そういうふうに考えております。

それではですね、この議題の(1)、ただいま事務局から説明があったわけですが、これに意見、それから評価点数を入れた上で、9月20日までに提出してくださいということになっているわけですが、これについて何か聞きたいところ、疑問点など何かありますでしょうか。いかがでしょう。

(津田委員) 評価項目は1年前とかに、この項目は、今年の評価項目ですと決まった上で、今その評価を入れるということでしょうか。

(事務局) 昨年の評価が終わった段階で、分けずらい項目とかがいくつか出てきて、ちょっとこれは分けて評価がしづらいなというものをいくつか統合して、そういった形で、今年は評価しますということを、今年の2月の協議会、ちょうど前回ですね、第4回の協議会で、今年はこの項目で評価をしますということを皆さんに諮って、ご意見いただいて、今年はこの項目で、評価をするということになりました。

(津田委員) さっきのお話をうかがっていて、いろいろマージしたり分けたりしたのが、今回はそうやってから再提出されたと思ったのですが、そうではなくて、事前に評価項目はこの協議会で合意されたもので、それに対して、評価を行うということですね。

それから自己評価のところが、いくつかサンプリングして読んでみると、どうして3なのかとか、4ではなく3にした理由とかが、明記されていなくて、こういうことをやりました、自分としてはこういう評価ですという書き方で、これは3に値するのか、4に値するものなのかというのが見えなかったんですけれども、或いはさきほど会長がおっしゃたように、去年まではどうだったのかとか、このレベルならこの点数といった前提があると、確かにありがたいなと思います。

(岩野会長) 点数を整理したときにも同じような質問が出たかと思いますが、なんで3なのか、4なのかという根拠は人によっても違うかもとか、いろんな問題ってのは当然あり得るわけですが、これについては、事務局いかがでしょうか。

(事務局) 以前は評価が3年に1度ということで、文章で評価をしていたのですが、毎年評価をするということになって、文章で評価するのは、自己評価もそうですし、有識者評価の方もですね、毎年、文章で評価していくというのは、かなりの作業量になってしまう。ですので、直感的にもう数字で評価して、できるだけ作業効率を上げようということで、数値化しました。

判断材料がですね、こちらの主な取り組みと年報だけの評価になってしまっているので、突っ込んだ内容、なぜこうなったのか、という意義が出づらいところがあるんですけれども、毎年やっていく上で、言い方は悪いんですが直感的に、あとは明確に出しやすいということで、3年に1度の文章で評価したものに加えて、細かく分けて項目を増やしたんですね、主な取組が見えやすいように項目を分けて、それで、その主な項目と年報を、両方見ていただいて、数値化していくという形にしました。

以前はもっと評価項目が少なくて、その代わりに文章で説明がしてあっ

たんですけど、より点数をつけやすいように項目を分けてそれぞれの項目についても、やや今までよりも詳しくレビューするようにして細かく記載して、評価していただく形にしてあります。

(岩野会長) 以前は文章という形で評価されていて、曖昧な部分といたらいいんでしょうか、それを、数量化することで、視覚化ですね、わかりやすく、その点数を少しずつ上げる努力を毎年のようにしていくという、そういうことで、数値化されてきたということだと思います。

最初は1 2 3 4ではなくて、A B Cとか、そういう案も出たはずですが、そういう中で数値、そして、1から4という評価になった。

ただ、先ほどの3か4かというのは人によって、考え方が、どう評価するのか違ってくるといのもあるので、ここは、それぞれの委員の判断でお任せするしかないということかと思います。よろしいでしょうか。

(津田委員) 自己評価をこう置いたからには、こうして欲しい理由がきっとあるのかなと。私は数値評価はいいと思うんですけど、この項目が並んで、これは去年に比べてこうだったから、4にしましたとか、こういう点で3にしましたとか、なんかそういう一言があればいい。確かに4とか3とかやりやすいとは思ったんですけど。

(吉川委員) 今回4と3という数字だったんですけど、もしかしたら2と1という数字が出た場合は、不十分だったことは何だったのかという記載をしていくような形で、課題としてこういうものがありますよということが、2と1がついた場合は、やっぱり一文入れていくというふうにしていくと、数字の評価というものが、分かりやすいように思いました。

4と3の違いってなんなのかということで、優れた成果があげているという文書があって、4のところは特にというのがある、特には何なのか、文書の中から読み取りなさいってことなんだろうけれど、そのことが評価した方の中でちょっと、一言伝えられると4の3との違いが分るとか、そういうことを私たちは見たいなと思うわけです。

評価の中でずっとこれ見ながら、今回4や3の部分が多いんですけど、前回も違った数字かなって感じがしましたが、どうでしょう。

(事務局) 令和5年度の評価を、皆さんに参考でわかるように、お渡しする方がいいかもしれない気がしました。その方が、年度でどういうふうに変わっているかというのがわかっていただけるかなと。

(浜田委員) 今のご意見と繰り返しになってしまいますが、学校の成績と同じような感じで、絶対評価と相対評価ってあると思うんです。今回、館でつけた自己評価っていうのは、去年に比べて改善されたので4になったのか、或いは絶対的にこれは館の目標を達成できたから4にしたのかというのは具体

的にわかった方が多分、他の委員も、評価の観点としては、しやすいのかなと、多分そういうことかなと。

(事務局) お配りした年報の暫定版未定稿と書いてありますけれども、令和6年度の年報の4、5ページの方をご覧になっていただきたいんですけども、ここに一昨年度、令和5年度の博物館活動評価書の抜粋というのがあります。これは実際に評価書の前段にお付けするもので、未定稿なので付いていないんですけども、実際の評価書の方にはこの部分というのが付きます。

この中で、四角で囲まれた、令和5年度における活動評価全体総括というのがあって、さらに定量評価と定性評価にコメントが書かれていて、この部分が実は自己評価も、それから有識者評価の方も含めた総括ということで書かれているんですね。ただこれは必ずしも数字の方と対応しているわけではないので、今後、評価書をどうしていくのかという中では、特に激変した部分というのは何らかのコメントが必要だという認識はありますので、こういう中でコメントしていくのが妥当かなと、やはり、定性評価の方に関しては個々にその数値の説明を書いていくと、また文章が増えていくということで、ちょっとその部分をできれば避けたい。ただ、今委員からのご意見の中で特に変化が認められる部分に関してはコメントがあるべきということに関しては、十分考慮してこの評価書を作成していきたいと思います。

(岩野委員) ありがとうございます。私の方から、数値について、一つ確認したいところがありますが、それは、この資料の1ページのところですね、定性評価。数字についてというところで、2ページ以降に出ているのは、博物館側からの自己評価の点数3とか4ということですね。

私たちが出す場合ももちろん同じように、1から4の数字を出すわけですが、定性評価の一番最後に、有識者による数値評価の平均点とあるということ、平均点ということは、10人の委員の方で割るとすると、例えば、全員が同じで4であれば4でいいんですけど、場合によっては例えば3.3とか3.6とか、いわゆる小数点以下になるかもしれない。

ここには特にそういう表示が何も書いてないわけですけども、ここを出す場合は小数点以下1桁までとするのか、場合によってはそれを割愛して、3.5以上だったら、4にするとか、何もそういう約束事が書かれていないのですが、まず表示は小数点以下幾つまでにするのか、あわせてその平均とするだけでは、ちょっと言葉が足りないのではないかと、それについて、事務局から何かありますか。

(事務局) 去年の評価に関しまして、3ページを見ていただくと、1番目が段階評価になっているかと思いますが、そちらが平均点を記入する、こちらで皆

様の方からいただいた点数を平均化して、平均点を各項目ごとではなく、2 ページをご覧いただきたいんですけど、有識評価のところは小数点第1 位までとそこはそうしたいと思います。

(岩野委員) だとすると、平均点とした上で、小数点以下1 位までを表記すると、何らかのことは必要だろうと、少なくとも、有識者の点数は、平均点とする、その後は、今言ったような方法がよろしいのかなと。

(事務局) 有識者評価に関しましては皆さんの意見が必ずしも一致しませんので、そうすると、それを、小数点第1 位以下を四捨五入して3 とか4 にすると、皆さんの意見を反映しづらいかと思いますので、有識者評価に関しましては小数点以下第1 位まで表記するということにします。

(岩野委員) 先ほど吉川委員の方から言われた、例えば10 人が、ほぼ同じような3 とか4 ならいいんですけども、例えば1 とか2 というふうに評価される場合だってある。それが数字として、見えにくくなると言ったらいいですかね、あまりいい点数をつけてないんだけど、全体としては、平均化すれば少し下がるのはわかるんですが、そういうのがどっかで見えるような形になると、もっといいのかなという、これは個人的な見解があるんですけど、それをどういう少数というか、1 とか2 をつけた場合、どういうところに反映したらいいのか、ちょっと私もまだアイデアはないんですが。

そういう厳しい意見っていうのがやっぱり反映されないと、全体としては薄まってしまうという問題があることが気になった。10 人いるから大丈夫だと、数が多くなればなるほど全体の影響は少なく、人数が少なくなるとより影響がある。10 人いるから、1 人、2 人が仮に低評価の点をつけたとしても、全体としてはそれなりの方向性の点数が出ると。

(事務局) 評価書としてはやはり、委員さん全員の平均ということにどうしてもなってしまうので、その平均点が、例えば1の方がいて、それでも4の方がいれば、中間になってしまうというのはあるんですけど、博物館としてはそういう意見があったことを真摯に受けとめる必要があると思うので、組織の中では、そういう意見があったっていうのを、必ず話し合いの場では、それをやっていく必要があるとは思いますが。

ただ、評価書として、その意見を、どうやって反映させるかっていうのは、どうしても数値評価になると、平均をとらざるをえないところがございますので、見えづらくなるっていうのは会長がおっしゃるとおりです。

(根岸委員) 関連してなんですけど、その評価の取り方っていうのは私はもう本当によくわからないんですけども、前年度この報告は、例えば3 だった、今年度は皆さんの平均で4 だった。その違いを、両方載せておくとなぜ1 上がったのか、下がったのかそこら辺が言葉で補足されていれば、評価が見え

やすくなると感じます。

(事務局) 前回の評価が、やはりどこかに載っていないと、ちょっとわかりづらいというのがあったので、今回、それは反映させるように、何かした方がいいかなと思っています。ちょっと載せ方を工夫しないと。全く変更がなければ、昨年度の評価ということで載せることも考えたんですけど、今回、評価項目を変えてしまったので、それができないので、その2ページの表を丸々昨年度評価として、別表で載せて、今年度評価は次のページのような形を検討したいと思うので、一つの欄には収められないで、この項目ですっと行くのであれば、2ページの表のところにつけて付け加えるということも、できるのかなと思いますけど、今回に関してそのやり方ができないので、その前のページに、昨年度の評価という形で、最初か、最後に載せるということでどうでしょうか。最初の方がいいと思いますけど、検討します。

(岩野会長) 厳しい意見をどう反映するかということですが、もしその厳しい評価を仮につけたとしたらそれはそれで構わないわけですが、その理由とか、そういったものを有識者意見として、しっかりと指摘していただければよろしいのかなと思います。

(事務局) 有識者意見でコメントを書く欄がございます。こちらは取捨選択しませんので、皆様からいただいた意見はそのまま載せます。そこに厳しく書いていただければ有識者意見として、数値としてはちょっと薄まってしまうかもしれませんが、この有識者意見のところに厳しいコメントいただければそれはそのまま掲載いたしますので、厳しい意見もあるなっているのがわかると思いますので、そちらに、コメントいただければと思います。

(岩野会長) ありがとうございます。他に何か。大貫委員お願いします。

(大貫(英)委員) 今の意見と同じようなものなんですけれど、自分の評価をするのにあたってですね、お話をしていただきたいと思いますが、4としたところですね。なぜ自己評価が4になったのか。4がいくつかありますよね。4は、特にすぐれた成果を上げている、またはその取り組みの成果が大いに期待されるっていうことが、4ですから、従来は私は前からやっていますから、なぜ、1-2aが4になったのか、2bが4になったのか、そこだけ一言ずつでいいから聞かせて欲しい。

もう1個、3-2の例ですね。ここは昨年度は、2に相当する評価であったと記憶しているんですけど、これが3になった。優れた成果を上げている。あるいはその取組が期待されるに変わった。

その辺のところ、その二つを一言ずつでいいですから。例えば2aは、こういったことで、特に、或いは3-2aは、こういったところで、優れ

た成果を上げていると自己評価しましたよ、一言ずつでいいから教えてください。そうすると私も評価しやすいのでお願いします。

(事務局) 評価4の項目ですが、上の方から、1-2a、1-2bが、4がついていますが、企画展示、ミニ展、もうこれはまとめて説明いたしますが、企画展示と教育普及事業に関しては、内容、質ともに、先ほどから、昨年度と比較して上昇しているかどうかということになりますが、これに4をつけてしまうと、来年度から4をつけられなくなってしまうので、この年の成果と考えてください。前の年よりも上がったか下がったかではない、そういうことで認識していただければと思います。

1-2a、1-2b、これはどちらもそうなんですけれども、我々の学芸員の人数に対して、企画展示、ミニ展示、教育普及事業、これはもうほかの博物館にひけを取らないどころか、ほかの博物館以上に実施してと思っていますので、4をつけさせていただきました。1-3の宇宙教育普及事業も同様に4をつけました。

施設設備の維持管理は、12ページのところですが、これまでの課題に入れていたエレベーターの修繕ですとか、空調の修繕ですとか、今まで課題だった修繕をかなり実施いたしましたので、ここは4をつけさせていただきました。

次の4ですが、2-2bですね。市民協働による博物館活動の成果発表ということで、16ページ、こちらも「学びの収穫祭」の成果ということになりますが、口頭発表、ポスター発表と、非常にたくさんの団体発表件数がありまして、発表団体ですね、博物館で活動されている市民団体からですね、学校とかに関しては、下は幼稚園、上は大学生まで、あとは、博物館以外の地域の学芸員が関わった市民団体ですが、様々な団体の方に発表していただいて、多くの方に、発表を聞いていただくことができましたので、こちらも非常に市民活動の発表の場としてはですね、こちらも、他の博物館以上の活動をしていますので、4をつけさせていただきました。

続いて、3番の多様な主体との提携ということで、他機関団体への講師派遣協力ですとかあとは、他機関での展示ですねこちらもですね、ここに連携先が幾つか挙げてありますし、あと、連携というよりかは、学会とか様々な団体への役員や審査員として参加したことを踏まえての評価ですが、こちらも非常に多様な団体へ協力したり、あとは講師派遣に行ったりしておりますので、こちらも十分評価できると思いますので、4を付けたということです。

今、3-1a、3-1bをまとめて説明いたしました。

4 じゃない 3-2a の講師派遣とか資料貸し出しによる学習支援ですけども、昨年までは、その資料貸出のところが貸出キットだけの評価になっていましたので、全体から見てですね貸出しキットだけに絞って評価するのは非常にバランスが悪いと考えて、ちょっと他のところと、他の資料貸し出しの学習支援とか講師派遣とかと組み合わせた結果、3 になっております。貸出しキットだけですと昨年までは非常に評価が低かったんですけども、今回ちょっと合わせたことによって講師派遣に関しましては、これは4をつけてもいいのかなと思うぐらいの講師派遣は行っております。

それと合わせて、3 ということで評価いたしました。

もう一つ4の評価、3-2bの評価ですけども、こちらは講師派遣というわけではなくて、学校さんがこちらを見学した時に、解説したのも含めて評価してありますけれども、様々な団体に来ていただきまして、解説もしましたし、あとはプラネタリウムの学習投影とかですね、団体向けでこちらでもかなりの件数、団体を受け入れております。中学生の職業体験も受け入れておりますので、こちらでも自己評価4とさせていただきました。以上です。

(岩野委員) ただいま、各評価項目の自己評価の根拠を説明しましたが、大貫委員ご理解いただけましたでしょうか。

(大貫(英)委員) 疑問としては、市民の感覚から言うと、例えば教育委員会、文教委員会、市民の代表というところで、他の館に比べてっていう言い方はないと思いますので、市民の代表にお答えできるようにしたほうがいいのかなと思います。

(浜田委員) ほかに細かい点でよろしいでしょうか。2 ページの1-4 なんですが、施設・環境の維持管理、多分後ろのページ1-4a でも、施設・環境の維持管理で同じタイプだったと思いますので、修正をお願いします。

(事務局) すみません、これはミスですね。申し訳ございません。

(浜田委員) あと、ちょっと確認したいんですが、施設設備のところで、例えば、冷暖房の設備とか、エレベーターの改修が進んでとてもよかったと思います。それでLEDの改修も、この資料を見ると大会議室が終わっているという表現なんですが、他の部屋のLED化というのは、何か見込みが立っているのでしょうか。

(事務局) 今委員からご質問のありましたLED化につきましては、先行して、大会議室の方をLED化させていただいております。

相模原市の取組といたしましても、令和12年度までには100%LED化ということが目標として掲げられてまして、当然こちらの博物館についてもその目標に向けた形で進めさせていただくということで、令和8年

度に全館、常設展示室を除く部分に関しては、LED化ということで予算要求の方は、今後進めさせていただきます。結果的に来年度できるかどうか分かりませんが、令和12年度までには目標として掲げておりますので、実施をするという形にはなるかと思います。今申し上げた常設展示室にしましては、展示照明が関わってくる部分ですので、若干一般照明とは異なるスケジュールで進む可能性があるかなと思います。

(岩野会長) ほかに何かございますでしょうか。なければ、次の議題にいきたいと思います。

(2) 常設展示室のリニューアルについて

常設展示室のリニューアルについて、事務局より説明を行った。

(岩野会長) ただいま、事務局の方から、来年度以降の博物館の常設展示室リニューアル計画についてご説明いただきました。聞いていて、結構、計画案としては、タイトだなと、短い時間の中でやることは、大変そうだなという印象を受けたんですけど、ご説明では、今のところリニューアルしますよということ、私たちの協議会委員としては、構想の策定に関わる意見をいただきたいということのように受け取りました。

そこで確認したいのは、策定案については、今日ではなくて今後についてでよろしいのかなってということなんですが、そこをもうちょっと、ご説明をいただきたい。

(事務局) 事務局から説明させていただきます。まだ本日の段階では、この策定しようとしている構想の部分ですね、こちらの部分がまだできていない状況ですので、できれば次回のですね協議会の中で、そのこの部分の骨子といいましょうかある程度内容が見えるものはお示しをさせていただきたいなというふうに考えております。

そこでご意見をいただいて、もう一段階ぐらい踏んでですね、完成版に近いものをもう1回お示しをして、そこでまた改めてご意見を伺うというふうな形で進めさせていただきたいなと考えております。

通常であれば、もう少し長い検討期間というか、そういった形で進められる例が非常に多いかなと思いますが、今回我々が進めようとしていること、計画してかなりタイトな計画の中でですね、なかなかそういったご意見をいただく機会が十分もてないというところもあるんですけども、1回1回の会議の中でできるだけ濃い内容で、ご意見をいただいて、できるだけ皆さんのご意見は反映できる部分は反映させていただきたいなというふうに考えておりますので、よろしくお願いします。

(岩野会長) 場合によってはタイトなスケジュール案だと思いますけれど、対面では

なくてもメールなどでご意見をいただくということもあると思いますので、臨機応変に皆さんに考えていただければと思います。

それには、こういった基本理念であるとか、目標だとか、たたき台がある程度あったほうが僕はいいと思いますし、それぞれ各委員のいろんな意見はあるかと思いますが、それがまた全部集まったとしても、集約するもの大変だと思うし、ある程度事務局側でどのような目標であるとか理念であるとかを、たたき台をしっかりと作っていただいて、それを、私たちにご提示いただく。それについてご意見をいただくというそういう形でぜひお願いしたいと思います。

この件について何か。ありますでしょうか。何でも結構です。一歩前進したなということでは、ありがたいことですし、うれしいことです。より大変になってくるかとは思いますが。

(浜田委員) 展示計画が前進して大変喜ばしいと思いますが、やはり工程が余りにもタイトで本当にできるかどうか心配ですね。現在、館の職員が多分立ち上時の職員が誰もいないので、多分またゼロからスタートになるのかなと思うんですね。もし来年度本当に基本設計するのであれば、もう今年度中に展示基本構想と展示基本計画書ができないと、委託ができないので、その準備を急がなきゃいけないのかなと思いました。

津久井と合併したので、多分今の「川と台地の人々の暮らし」ていうのは、変えないといけないと思うんですね。そうすると全面改修ってことになるかなと思うんですけども、ただ大規模な展示たくさん作っているんで、特にジオラマ。多分あれを壊すのは非常に難しいのかなと思ってんですけど、残すか残さないのか、全体のテーマ設定に多分変わってくると思います。

それから予算もついていいと思うんですが、8億円弱のようですので、前の展示工事が12億3000万円かけて作っているんですね、当時の平米単価で100万円使ってますので、今回70万円で、今すごく物価高騰で、それを考えると、どこまで改修できるのか、多分展示ケースは全部更新できると思いますが、模型、ジオラマははかなり厳しいのかなと思うと、そうすると、その展示のテーマと、中身をどう勘案していくか、それが、皆さんにお任せするしかないんですが、それがちょっと課題かなと、お話を聞いて、思いました。以上です。

(事務局) 今回先ほどご説明申し上げたの特定天井の話がありまして、特定天井があるのが、こちらの資料2の3ページのところの「4 人と自然の関わり」のところですね、ドーム型の空になっているところとあと、「3 暮らしの姿」、民俗の展示があるところと「2 郷土の歴史」の上半分ぐらいのと

ころが特定天井になっているというところです。特にこの4テーマのところに關しては、特定天井の工事に伴いまして、現在あるジオラマ、これは解体せざるをえないという状況になっておりますので、もちろん、基本的には全面改修ということで手は入りたいなと思っているんですが、この4テーマのところがだいぶ変わるというか、現状のジオラマを維持するのがなかなか難しくて、大規模な改修になるのかなという見込みです。

ただ、現在の大谷家の復元とか、あれをなかなか解体して別物にするとか、なかなかそこは難しいのかなというところで、大物はおそらく残す感じになるのかなと思うんですけども、特にその4テーマのところですね。そこの改修というのが課題かなと思っております。

(大貫(英)委員) 8億だから、今の情勢ね、例えば同じ文化財関係でもね、1億あればできるっていう事業もたくさんあるわけで、もちろん福祉だとか、そういうところに行けばね、経済なんかに行けば、多様な課題、市が抱えてるわけでね、そういう中では、なぜこれが必要なのかといこともね、我々は、身内みたいなもんだから、博物館が好きだから、納得ができるかもしれないけど、あるいはね今話題になってる伊東の市長さんですか、図書館を新たに作るっていうことに反対してる話になっているわけですよ。

今、全国的な状況の中では、必ずしも文化施設、教育施設に対して、市民が寛容ではない。これだけの活動をしている博物館が必要なんだ、明日の相模原を作るために、そういったところが学芸員、博物館全体がきちんと議論して、いらないという運動、起きるかもしれません。誰に質問されてもそれに答えられるように、みんな議論しておくべきだろうというふうに思います。

(岩野会長) 貴重な意見だと思います。アンチの意見もありうるだろうと思います。

このリニューアルについて、協議会としては次の機会ということでよろしいですね。今日は、説明を聞いたというところでありがとうございました。

それでは議題(3) その他ということで事務局の方から何かありますでしょうか。

(2) その他

プラネタリウムのリニューアル後の状況や今後の事業の予定など、事務局より説明を行った。

(岩野会長) 事務局の方から夏のイベントについての報告、特に7月16日のプラネタリウムのリニューアルに関して、その後、事前予約での申し込みを受けたりということで、非常に多くの方が興味を持って来ていただいているということで、例年の2倍の来場者ということで、その分、博物館のスタッ

フの皆さん、ご苦勞が大変多かったのではないかなと思っておりますので、私の方からの皆さんを代表してですね、感謝を申し上げたいと思います。

(事務局) 1点申し上げ忘れておりました。今回、リニューアルに合わせてですね、年間パスポートという新しい制度を作りまして、お申込みを700件程いただきまして、我々の想定よりも大分多く、このパスポートは、通常の方ですと、2000円、つまり、1回500円で4回でもとが取れて、5回目からお得になるというパスポートなんですけれど、もちろん65歳以上の方は半額で1,000円、お子様が800円と、こちらも大変ご好評いただいています。それからもう一つ大きな変化といたしましては、特別席というものを導入しまして、リクライニングなど豪華な特別席、ダブルとシングルというこちらもですね、プラス300円なんですけれども、座る人いるかなと思ったら、意外と各回、特別席をご希望される方がいらっしゃってご好評いただいております。

(岩野会長) 特別席はほとんど空きがないようです。毎回、特別席は空くということは、ほとんどないような。

(事務局) 今、若干落ち着いてきまして、空いてる回もあります。リニューアル当初もそういうこともかなり広報して、広報さがみはらにも大きく掲載されていたのですが、今まだ周知が足りていないという状況があります。

(岩野会長) 11月からですか、今度「ポケモン天文台」に向けてお忙しくなるかと思えますけれど、体を壊さないように、頑張ってくださいと思います。

それでは議題のその他ということで、もし、委員の皆様の方から、何かご意見とか連絡事項があればお願いしたいのですが。

(大貫(努)委員) うちの学校は小山小学校なんですけど、出前授業に来ていただきましてありがとうございます。常設展示が凄く楽しみなんですけれども、2年間展示室休室ってということで、スケート教室で来たときに、プラネタリウムは、この2年間に入れるんでしょうか。

(事務局) はい。

(大貫(努)委員) 子ども達もとても楽しみにしていますので、よろしくお願いします。

(岩野会長) ほかに何かありますでしょうか。では他に無いようですので、それではこれで、一度議事を終了します。進行を事務局へお戻しします。よろしくお願いします。

(事務局) 以上で本日の日程の方は終了ということになるんですが、次回協議会につきましては10月の28日の火曜日の午前中ということで開催をさせていただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

この後、4時から全天周映画がありまして、もしご希望があればですね

全天周映画のMMXの方をご覧いただけますので、そちらの方をご覧いただければと思います。また、今30周年の記念展の方もやっておりますので、もしご希望される方いらっしゃいましたら、プラネタリウムの後にご覧ください。プラネタリウムをご覧にならずに30周年だけご覧なりたいてことがもしいらっしゃればそちらを先行してご案内いたします。

ではこれもちましてですね博物館協議会の方を閉会いたします。ありがとうございました。

次回は令和7年10月28日の開催を予定。

以 上

相模原市立博物館協議会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	大貫 努	市立小山小学校校長		出席
2	佐藤 和彦	県立相模原弥栄高等学校校長		欠席
3	大貫 英明	市文化財研究協議会会長		出席
4	大谷 春枝	市P T A連絡協議会書記		出席
5	吉川 恵美	市女性学習グループ連絡協議会代表	副会長	出席
6	岩野 秀俊	元 日本大学生物資源科学部教授	会 長	出席
7	浜田 弘明	桜美林大学リベラルアーツ学群教授		出席
8	津田 雄一	宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所 副所長・教授		出席
9	関 明	公募委員		欠席
1 0	根岸 恵	公募委員		出席